

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(大学生研修)
- ・大切な人達の旅立ち
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

196号/2022 ▶ Since 1984

「選択と集中」

杉浦 良

最近良く聞く言葉に「選択と集中」があります。「将来伸びるだろう領域に予算を多くし、じり貧な部門は削減する」と言われれば、私も含めてその通りだと、納得してしまいます。

しかし、よくよく考えてみると、将来伸びるだろう領域とじり貧な領域が判れば良いですが、それが判らないから難しい。有能な学者や研究者、専門家と言われる方々が必死に考えておられるでしょうが、残念ながら正解はありません。もし正解が解ればノーベル賞どころか、世界の預言者として世界の歴史に刻まれることでしょう。

かつて、日亜化学で青色発光ダイオード開発に取り組んでいた中村修二さん。その著作から、優秀と言われる研究者の集団とは違う変わり者として、手作りの研究装置を使っての、気の遠くなる試行錯誤が読み取れます。他の従業員が稼いだお金で失敗ばかりの研究をして、皆から陰口を叩かれながらも、朝7時から夜の7時まで毎日研究に明け暮れた日々がありました。資金を節約するために研究装置を手作りしたのと、そんな彼の研究を許した社長の度量の広さが、成功に繋がったと理解しました。

当時主流だったセレン系のアプローチをやめて、終わったとされたガリウム系の結晶作りに臨んだあたりは、偉大な「へんこつ者」として表彰状ものです。ただそれも彼が青色発光ダイオード開発に成功したからで、もしそうでなければ、大いなる「うつけ者」として厳しい現実と直面されたことでしょう。赤色発光ダイオード、緑色発光ダイオードが開発され、最後の青色発光ダイオード開発に成功したことでLEDランプが作られ、世界の照明器具の電気使用量を大きく削減したことは人類史上偉大なことです。「選択と集中」とは正反対の発想が、この成功を導いたと思います。

太陽と緑の会が「人も物も活かされる街造り」を標榜し、様々なハンディーを持ったメンバー達とリユース・リサイクル活動に取り組んだのが1984年。気が付けば38年も経ちます。リサイクルショップなど、



どこにもなかった時代です。ご存じの方も少なくなっただけでしょうが、マイクでエンドレステープを流す業者の軽トラックが街中を走り、古新聞や古雑誌、段ボールとトイレットペーパーを交換したり、買い取ってくれた時代でもありました。そんな時代に、古新聞や段ボールを無償で提供して下さる方は、当たり前ですがほんの僅かです。古紙業者に持ち込むと段ボールは1キロ20円、古新聞が17円、古雑誌は14円程で買い取ってくれた有難い寄付です。時代は移り、段ボールが3円、古新聞2円、古雑誌は0円になり、現在は段ボールが4円、古新聞5円、古雑誌4円です。チリ紙交換のトラックが絶滅した理由でしょう。

家具、電化製品、衣類、雑貨、食器、自転車、本、鉄屑、段ボール、古新聞、古雑誌などリユース・リサイクルできる品物を、一般市民の方々から無償で頂く活動を続けてきて、見えてくるものがあります。当初は常設店舗などなく、太陽と緑の会創立者近藤文雄が営む病院の駐車場を月に一度お借りして、ガレージセールをしていました。

修理した電化製品や自転車、家具などが売れ筋で、衣類や雑貨、食器、本などは脇役です。電化製品が中国製に移り変わる頃、修理というよりユニット交換の時代になり価格も下落したことで、電化製品は運営費捻出競争トップの座を退きました。その次の自転車は、徳島市より放置禁止区域から撤去され引き取り手のないものに限り頂けることになり、次のトップの座を引き継ぎました。ただ中心部のドーナツ化現象もあり、放置禁止区域から撤去される自転車自体が減少、以前の10分の1以下にもなりました。そんな影響もあり、次のトップの座から撤退することとなりました。その次の家具は、クローゼットや作り付け収納スペースなどの登場や時代の移り変わりもあるのでしょうか、洋服ダンスや和ダンス、整理ダンス、鏡台、食器棚、勉強机といった類は、ほとんど使ってもらえなくなりました。

「・・・徳島は東北と違い、古着の文化はないんよ・・・。工夫しても、人の手を通したものは阿波徳島ではあかんわ・・・」

当初そんな有難い忠告を頂きました。確かに色々工夫しましたが、衣類の売り上げは振るいません。ただ時代のフェイズが変わったのか、古着のイメージが変わり、似合えば古着であろうが新品であろうが余り重要でなくなった感があります。

「・・・今履いている靴は1000円、ジャケットは谷口さんというネームが入っていますが500円、このコートも500円、カッターシャツは200円、カバンが1000円で・・・ズボンと下着は新品を買いましたが・・・1万円で十分おつりがきます・・・」

話をさせて頂く機会を頂いたとき、こんな話をすることで場を持たせたこともありましたが、今はなかなか受けません。気が付けば、衣類の売り上げが目立つようになりました。

「選択と集中」という視点で太陽と緑の会のリユース・リサイクル活動を切り取れば、何か一つに特化させて、その時の運営費捻出に大きく貢献できる方法はあったでしょう。しかし長くは続きません。次々に特化するものを変えて、当たれば良いですが、外れれば大変です。太陽と緑の会は、売れ筋を集中して高く買い取る今流行のリサイクルショップではないので、それも出来ません。外れて運営費が少なくなれば、おのずと公的資金を少しでも増やすことに方位を向けざるをえなくなるでしょう。

言えることは、選択と集中など、人間の浅はかな頭脳ではできないと悟ることでしょうか。大切にしたいと思う活動の展開を、日々日常の地域の中で、やれる範囲でコツコツと、腐らず、諦めず、続けていくと、気が付けば38年の足跡が残りました。有難いことです。

お知らせ

大学生が研修

3月3日四国学院大学大学生8名と富島先生(社会福祉学部教授)が来られました。支援学校の教員や社会福祉を目指す学生を対象に、映画「そっちやない こっちや コミュニティケアへの道」(1982年/110分/監督/柳澤寿男)を講義で見て、太陽と緑の会に研修見学に来られました。

今回は学生4人と当会のメンバーKさんが、昼食の味噌汁を共同作業で作ってくれました。ハートランドあっぶるの弁当を予約購入、皆で作った味噌汁と一緒に、昼食となりました。

午後から当会の活動をパワーポイントで紹介しつつ、なぜこんな活動を続けてきたか?に迫ります。なかなか鋭い質問や的を射た質問もあり、あっと言う間に17時近くになりました。朝から夕方まで充実した研修になったでしょうか?企画した富島先生に感謝です。

「部屋が雑然としていて、そのメンバー達がワイワイガヤガヤしているところが、実はメンバー達を大切にしているところで・・・その逆は枠に入れ管理している施設・・・そんな感じがする・・・」

そのような実践知を持った専門家が少なくなつたと感じる、この頃です。

イノシシの肉頂きました

Yさんからイノシシの肉を頂きました。知り合いの方が愛媛県から送って下さったそうです。鹿肉を頂くことはたまにあります、イノシシは珍しいです。

早速、メンバーAさんがボタン鍋を作り、日曜日の昼食のメインディッシュに。

「肉ばかりよそったら、後に食べる人に肉が当たらなくなってしまうからね」

スタッフBさんのお願いの声も、メンバーさんの殺気(?)にかき消されそうです。Yさん、有難うございました。

ランドセルあります

売場でランドセルの入れ替えをしていたら、「ランドセルの中古もあるんや」と驚いておられるお客様もおられました。

「かわいい孫のために新品のランドセルを買ってあげる」という方もおられるかもしれませんが、ただ何万円(高価なものだと10万円以上)もするような新品のランドセルを買ってもらえるお子さんもおられれば、そうでない(経済的に厳しい)お子さんもおられるかと思ひます。

(太陽と緑の会の作業所に通ってくるメンバーさんの中にも、新品の衣類や靴カバンを親に買ってもらえず、作業所のリユース品で日々の生活をつないできた方や、朝食や夕食を親が用意してくれず、作業所の昼食を多めに食べてしのいだ方がおられました)

「新入生に中古を持たせたらかわいそう」という方もおられるかもしれませんが、使用感の少ないきれいなランドセルもございますので、ご覧になって頂けたら、と思ひます。使い勝手の良いA4フラットファイル対応のランドセルもあります。

(考えてみれば、一度でも使えば新品も「中古」となり、1年もたたないうちに、入学式の時に新品だったかどうか、見分けなどつかないようになってしまうのかもしれませんが・・・)

歳末たすけあい寄付金

令和3年度歳末たすけあい寄付金(徳島県共同募金会)の配分として、地域活動支援センターⅢ型の太陽と緑の会リサイクル作業所と、障害者地域共同作業所の太陽と緑の会月の宮作業所に、それぞれ3万円を頂きました。リサイクル作業所は事務所テーブルを購入し今まで使っていたものは作業台として再利用する、月の宮作業所は台所の老朽化した換気扇と今までなかった換気扇フードの購入取付けに活用させて頂きました。有難う御座いました。

大切な人達の旅立ち

令和3年5月27日午前0時過ぎ、(特非)太陽と緑の会元理事・障害者地域共同作業所月の宮作業所元所長の櫛田博史さんが67歳で旅立ちました。徳島県立城北高校時代に福祉ドキュメンタリー映画「ぼくの中の夜と朝」(柳澤壽男監督)を見たことで、太陽と緑の会創立者近藤文雄と出会いました。

筋ジストロフィーの研究所設立運動に取り組み、城北高校の一年先輩田所健太郎氏と一緒に電動車いすを作ったり、「ぼくの中の夜と朝」の九州上映会キャラバンを行ったりしました。徳島療養所ボランティアや、子供キャンプのボランティアとしても活動。

1984年に太陽と緑の会徳島福祉リサイクルがスタートしてからは、電気工事・水道配管・建築土木など、何でもやれる「くっさん」として活躍してくれました。自動車部品メーカーの生産技術課長を早期退職して、太陽と緑の会月の宮作業所の所長に就任。「自分が設計した豚小屋だからな..」と、思いの深さは超一流でした。ただ残念ながら、難病をいくつも抱える運命の厳しさと直面することになりました。

「さすがに3つも難病を抱えた人間は..そうおらん..ボチボチやるわ」

ここを退いた後、そんな冗談とも思えない言葉が呟られました。4つ目の難病は、この世に戻ることはない旅立ちとなりました。新型コロナで面会が一切できなかったことが悔やまれます。

「25までは学生で、50までは仕事し、75まで好きなことをやる..」そんな言葉を残した、太く短い人生でした。合掌。

令和3年6月23日、新聞の死亡欄に三好義夫さんの名前を見つけました。宮地仏壇の工場長時代、太陽と緑の会創立者近藤文雄の病院を訪れたことから、太陽と緑の会リサイクルバザーのボランティアとして、毎月第4日曜日に関わってくれました。

使われていない豚小屋を月の宮作業所として活用するにあたって、トイレも水もない、雨が降ればぬかるむ現状を改善するため、随分力を貸してくれました。仕事を終え軽トラで月の宮に駆けつけ、車のライトを頼りに一緒に作業したことを思い出します。寸からミリへの図面の制作などの話、独立して白鳳工芸を立ち上げ、仏壇造りに対する熱い思いも聞かせてもらいました。ただ残念ながら若くして病が進み、72才で帰らぬ人となりました。合掌。

令和3年12月18日、般若院宮崎住職から、奥様厚子さん死去の連絡が入りました。突然の訃報に言葉が出ません。ワークキャンプ事業を日本青年奉仕協会(JYVA)と共催するにあたり、シンガポールからの参加者通訳として、ボランティア参加していただいたのが最初だと思います。



2011年3月11日に起きた東日本大震災の支援「般若院おおたか静流チャリティーコンサート3月16日」がスタート。2019年11月6日「第10回般若院おおたか静流チャリティーコンサート」まで10回にわたる支援(総額 2,048,822円)が出来たのも、宮崎住職は当然ですが、厚子さんの強力なバックアップがあつての事でした(宮城県仙台市ありのまま舎へ 1,877,322円、太陽と緑の会へ 171,500円)。お寺のバックヤードだけでなく、臨床心理士としてがん患者へのカウンセリングなど、凝縮した68年間でした。最後まで入院せず、納得できる人生行路を選んだ潔さに敬服。合掌。

令和4年2月15日朝9時過ぎ、松下照美さんの訃報が入りました。肺ガン治療を続け、いつかこの時が来るだろうと、予測はしていましたが、新型コロナの影響で見舞いに行くことすらできませんでした。葬祭場の都合で、一日だけ葬儀屋さんに留まることになったと連絡が入りました。穏やかに横たわる照美さんに、最後のお別れが出来たことは幸いでした。

モヨチルドレンセンター活動報告会のため、全国を歩き回っていた照美さんが、毎年ケニヤに帰国する最後に、立ち寄ってくれたのがここです。わずかですが、モヨチルドレンセンターに支援を続けてきたことへの報告でもあります。朝ミーティング前の30分程、ケニヤのストリートチルドレンの話をしてくれました。ゴミ集めや荷物の担ぎ屋など、僅かなお金を稼いで路上生活している子供たちの様子や、シンナーでフラフラになっている様子など。。

「何でシンナー吸うの？そのお金で食べるもの買ったら？」の質問に「食べものよりシンナーの方が安いのよ..シンナー吸うとお腹が減ったの忘れられる..でも最後は脳を侵され..廃人になる..」メンバー達みんなに伝わったかどうかは判りません。しかしいつもワイワイガヤガヤする皆が、シーンとする瞬間は確かにありました。

とても日本人など立ち寄ることすら難しいケニヤのスラム街を、彼女は現地スタッフと2人で歩き回り、モヨチルドレンセンターでフォロー出来そうな子供たちにアプローチしてきました。強盗に襲われたり命の危険にも遭遇しながら、体を張ったその姿が少しずつ認められようになりました。役人や警察のワイロ要求にも毅然として、諦めずしぶとく正攻法を続けた姿勢が、いつしか閉ざされた門を開かせることに繋がります。そんな彼女の後ろ姿はストリートチルドレンたちの記憶に残っていくはずで、教育より、そんな生き方をした四国徳島出身の日本人がいたこと自体が、人として大きな意味を持つことになるでしょう。合掌。

昨年から次々大切な方たちの訃報を受け取ることになりました。私も含めてそんな年になったということもありますが、ユングのコンステレーション(布置)やシンクロニシティ(共時性)といった言葉が浮かんできました。大きな変化や意味があるのであれば、受け止める度量と覚悟が必要でしょう。その日一日一日、しっかり生きていく以外、道はないように思います。今まで有難う御座いました。

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2021年12月20日～2022年2月28日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下さった皆様

三好商事自動車部、田村、友成、匿名、匿名、般若院 宮崎厚子、般若院募金箱、匿名、上田、匿名、井上、楠、米田、田村(郵便振替口座)北岡、大谷、大田、秋山、浜田、河村、伊地知、匿名、太田、足立、永口、高坂、佐藤、森、豊崎、近藤、飯田、瀧倉

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○瀬戸、多田、谷口、榎本、岩本、加宮、遠藤、竹内、山本、小倉、川人、柳川、犬伏、松崎、米田、本城、丸山、林、岡田、古川、森口、近藤、河野、今川、中川、青木、重高、カマハラ、クレール原田、中木、井上、フジイ、福井、美馬、弘田、升山、福本、鍵、清水、山本、渡辺、知野、原内、富永、上久保、中園、田中、徳永、小山、大石、川野、小山、川端、庄野、村上、花谷、板東、真尾、月岡、山内、佐藤、原田、ミヤザキ、西野、大松、荒木、小倉、桑原、森、谷井、近藤、西條、ヨウチ、櫻谷、祖父江、大島、市原、藤岡、戸田、カマハラ、島田、今村、榎本、加藤、芦田、小池、楠、鈴木、馬場、泰地、井内、多田、梅原、坂本、宮田、黒川、秋田、井上、岡久、宮本、湯浅、小出、原田、大川、尾形、山本、秋山、小野木、熊谷、米澤、蜂井、田中、佐藤、阿部、北、新居、まゆやま学苑、蒔田、国府支援学校、久米、後藤、笹盛、はまの、中原、古川、藤本、杉本、露田、カマハラ、松原、山口、月岡、平山、三好、木田、小山、加宮、小名木、岸本、山下、松本、シミズ、田川、徳永、鈴江、村瀬、笠井、前田、安喜、武市、島田、内田、大隅、後東、日下、城本、加藤、高橋、木内、長尾、石川、柳井、石山、くめ、青木、坂東、佐野、中村、宮崎、井川、河上、田所、湊、岸本、平岡、石本、郡、川口、菅井、島村、矢川、合田、庄野、荒木、杉本、福田、岩田、イハラ、西野、高田、田村、川島、大久保、ムカイ、東、木村、森、吉富、夏木、森川、松田、福井、坂東、松家、斎藤、荒木、ミヤモト、ヤマト、小林、傳住、たけうち、久保、藤岡、吉岡、原田、桂、枝澤商店、長尾、桑原、三浦、足立、永正、合田、吉永、多田、高開、川島、酒井、藤田、三木、川尻、勝本、三村、谷本、永濱、ミヤモト、近久、坂東、和田、服部、尾崎、広岡、阿部、広田、杉友、佐々木、金森、岡久、岸、津嘉山、豊田、藤井、柚木、荒木、市川、三瀬、杉原、後藤、木下、岸、ミマ、梅原、中石、松村、小出、奥野、栗島、高田、榎尾、前田、石山、岸本、吉内、小林、川人、福本、助岡、國見、山崎、大内、笹山、木内、森田、廣田、エンドウ、安岡、中村、クサナギ、小濱、四方、浜田、春田、佐古、戸田、藤本、見定、ミヤモト、阿瀬川、大館、菅井、吉富、渡辺、一森、藤田、横山、河野、大野、西浦、加宮、山本、大津、日下、平岡、吉岡、杉原、上田、泉、島田、山橋、長谷川、杉本、池田、米沢、勝本、上田、山内、森本、西條、前田、大島、福井、中原、兼子、久米、河崎、笹田、井貝、小池、中西、角田、青木、大和、大久保、平田、新田、杉本、阿部、照本、岩崎、小津、カワバタ、東口、岡本、渡辺、大寺、木内、布施、仲村、神下、竹田、西岡、大寺、木内、布施、仲村、神下、竹田、女性グループ すいーぷ、林、桑原、磨洲、長尾、板東、XAVIER、ツジ、楠本、楠本、高田、杉本、津田、勝瀬、米沢、新居、藤岡、森田、長尾、大磯、森岡、山内、河村、村井、大黒、後藤、桂、工内、田中、勝瀬、米沢、新居、森岡、河野、門田、岩田、戸田、小野木、池本、大島、上山、蒲原、木下、市川、村田、鈴木、梶村、小倉、井貝、岩田、丸宮、富田、野村、笠井、赤堀、山崎、熊谷、江戸、渡辺、田村、田中、福島、藤井、尾方、橋本、西條、中野、藤本、堀川、櫻原、谷本、高橋、吉村、若林、大西、木村、織田○吉野川市○竹林、吉田、明石、大谷、田鍋、石田、中西、後藤田、工藤、多田、田村、ナカニシ、大塚、藤井、喜島、柏木、夕ナカ、大塩、森、河野、十川、上岡、田川○石井町○岡田、大石、藤本、浅井、森野、本庄、近藤、後藤、秋岡、大塚、新見、井内、斎藤、藤川、笠井、松尾、白木、前田、山西、萩田、武田、松本、楠、佐野、木内○藍住町○松本、ヤマモト、熊本、川端、幸野、石宮、西川、三好、川島、中川、山本、太田、川口、朝波、二宮、齋藤、佐藤、玄野、庄野、濱、熊本、杉村、岡本、中村○美馬市○藤田、佐藤、坂口○北島町○萩原、中川、川村、工藤、田根、青儀○板野町○岩瀬、鈴木、西○つるぎ町○谷、柴田、上田、上田○上板町○安岡、鈴木、笠井、宮崎、新開○海陽町○乾○牟岐町○米田、中井○上勝町○稻生○勝浦町○石花、浅川、中西、ウェアストラータ、上白川○阿波市○後藤、新見、横山、山本、上原、福田、鈴江○鳴門市○放生、野々瀬、近藤、吉田、今井、渡辺、美崎、福山、益田、森、正木、山本、八木、三原、串○松茂町○朝井、さとう、福山○小松島市○三瀬、徳政、長岡、飛田、杉野、徳政、中野、浜口、数内、岩本、藤野○神山町○瀧本、中谷、藤本、塩田、採澤、藤野、松村、西久保、中、上田○阿南市○山本、坂東、森口、佐坂、住友、坂田、村上、原、粟飯原、酒本○大阪府○永口○東京都○小山、三浦、小林、高橋○京都府○伊地知○愛知県○松浦○福岡県○永峰○香川県○三好○兵庫県○松尾○奈良県○足立○神奈川県○田崎○埼玉県○本田

編集後記～一体どこが悪いの？

太陽と緑の会の作業所に通ってきている精神的ハンディを持つメンバーさんで、調子を崩してしまう方が増えています。

自分でいつもより作業時間を短くしたりゆっくり作業に取り組んでバランスを取ろうとしている方、ささいな体調の変化にとらわれてしまい「息切れがする」「血圧が高い」と不安になって診察を受け「特に問題なし」との診断を受けて安心される方、「オミクロン株」についての連日のテレビ報道を見て不安になってしまう方、「一般就労でやれるんじゃないか」と頑張ろうとしてしまう方、ひとりひとり様々です。

パッと見ただけだと、普通に会話もできて、作業もできて、身体に不自由なところもない、となると、「一体どこが悪いんや、別に普通の人と変わらんやないか」と思われてしまいがちですが、むしろそこが生きづらさにつながっていったりもします。

一般の職場で「ちょっとしんどいので今日からしばらく時間を短くして下さい」などと申し出たら、「急にそんなこと言われても、シフトも組んでしまっているし、困るわ」と言われてしまうかもしれません。

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立ていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

「やっぱり大丈夫です。頑張ります」と無理を続けて、ある時、急に来られなくなって入院となってしまうことはよくあります。

「今日は調子が悪いので休みます」などということが続くと、「やる気」「根気」「責任感」の問題と見られてしまうこともあるでしょう。

当事者の方の中にも「早く、健常者の人と同じように仕事ができるようになりたい。かつての自分に戻りたい」という気持ちがあると、問題はさらに複雑になってきます。

税金で守られている事業所は別として、通常の民間の事業所であれば、最低賃金以上の給料を出すからには、それに見合うだけの成果を求めるのは、ある意味当然のことです。そうでなければ運営が成り立ちません。

一般就労して最低賃金以上を得ることが最終目標のように語られがちな昨今ですが、自分のペースで働くことを大切にしてくれる場で細く長く持続していくこと、なるべく入院せずに自分のハンディと折り合いをつけながら歩いていくことの意味を改めて思います(文責:小山)。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1
TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 宇津

年会費：正会員 1 万円 (総会議決権)

準会員 1,000 円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会